

糖尿病性ケトアシドーシス(DKA)とは

糖尿病が発見されずに無治療で経過した場合や、インスリン治療を行っていたがうまく血糖値をコントロールできないまま長期間経った場合などに発症します。**緊急性が高く、命が脅かされる状態です。**

本来ケトン体は脂質を効率よくエネルギー源として活用する際に産生され、体の抹消組織で利用されます。糖尿病下においては、本来エネルギー源として第一選択される炭水化物(糖)の利用効率が落ちてしまい、活用できないため次点の脂質をエネルギー源として活用するようになり、ケトン体の産生が過剰になります。活用しきれなかったケトン体は血中へ行きます。ケトン体は弱酸性のため、体が酸性に傾きます。

糖尿病が原因で ケトンが蓄積し 体が酸性に傾く

↓
糖尿病性

↓
ケト

↓
アシドーシス

となります。

《症状》

- 元気が無い
- 食欲が無い
- 呼吸や尿臭の変化
- 嘔吐
- 脱水
- 意識消失、昏睡

昏睡状態に陥ると血圧、脈拍、体温などが低下し、そのまま亡くなってしまうことがあります。

全身の状態や血液検査、尿検査などから診断されます。



《治療》

重度に生命が脅かされる疾患です。基本的には入院での集中治療となります。昏睡状態が長くなると回復したとしても後遺症が残ることがあります。

◆ 点滴治療

- 補水して脱水を改善させる
 - 崩れた電解質バランスを補正する
 - リン、カルシウムなどの体内ミネラルバランスを正常にするために補う
- などを目的として点滴治療を行います。発症時はこれらのバランスがすべて大きく乱れており、こまめに血液検査をして足りなければさらに補う、など調節が必要です。

◆ インスリンによる血糖コントロール

血糖値が高い状態だと、さらに体の脂肪を用いてケトン体が産生されます。こまめに血糖値を測定しながらインスリンを微調整します。

◆ 食事

自分で食べられるようになる位回復するまでには時間がかかることが多いです。しかし食べない期間が長いと弱ってしまったり、体を分解してまでエネルギーを作ろうとしてしまいます。注射器などで口にごはんを入れたり、鼻からカテーテルを入れて、流動食を流し入れることで栄養管理を行うことがあります。